

梅海新道（日本海から白馬岳縦走）

【報告・参加者】 T 寄

【日 時】 2019 年 9 月 25～28 日

《総括》

今山行は、北アルプスで未だ歩いたことのない、梅海新道と唐松岳の餓鬼尾根をトレースすることを目的に計画した。

悪天候と台風の襲来により行程を短縮して白馬岳から清水尾根を経由して祖母谷温泉へ下山したが、

- ①親不知海岸から北ア北部盟主の白馬岳まで縦走できたこと
- ②水平道分岐近くの小桜ヶ原の美観を再認識できたこと
- ③清水尾根お花畑の草紅葉を堪能できたこと
- ④初日：2 パーティーの下山者 6 人と梅海山荘で 1 人、2 日目：吹上のコルで 1 人、3 日目：白馬山荘の従業員 1 人、4 日目：0 人 登山口から祖母谷温泉まで、4 日で 9 人にしか会わない静かな山行
- ⑤ザック重量が 15 kg を超えると、牛歩となる悲しい現実

等を体験・確認でき、ここ数年の中では、非常に満足できた山行であった。

《報告》

【9 月 25 日】 終日雨、夜半強風

梅海新道登山口 05:00 → 06:30 二本松峠 06:40 → 尻高山 07:40 → 坂田峠 08:15 → 09:05 シキ割水場 09:25 → 10:35 白鳥山 10:50 → 12:20 菊石山 12:40 → 14:30 梅海山荘



親不知の海水に両手を浸して、レインパンツに傘を差してスタートする。出だしからの急登、樹林で風が無いので暑い。レインジャケットを着ていたら、盛夏だったら、と思うとゾツとする。二本松峠先の林道に最初の「打ち抜き標識」があった。シキ割水場で大休止。50ℓの水を運んできたが、豊富な水が流れていた。ザックの重さに耐えかねて、白鳥小屋、菊石山と大休止を繰り返し、かなりバテて梅海山荘に辿り着く。

＜最初の打ち抜き標識＞ 山荘には、昨日登ってきた岩手の 20 才の学生さんが沈殿していた。山荘裏には天水を貯めたタンクが在るそうで、持ち上げる水は 20ℓほどで十分だったかも…。

梅海山荘は 1969 年に 4.0×3.0m の平屋で建設されたが、その後 2007 年までに 13 回もの増築が行われて、現在の大豪邸になったそうである。壁に経緯が図説してあったが、大変なご苦勞であったかと思われる。

厚志箱に協力金 2000 円を入れさせてもらう。

此処までの登山道は、尾根の頂稜を忠実に通っており、アップダウンの連続であるが、以後の補修整備等を考えると、これが正解かもしれない。

断熱マットと毛布を借りて温かく寝れたが、夜半強風で何度も目が覚めた。



＜梅海山荘＞

【9月26日】 曇り&ガス、夜半強風と曇

梅海山荘 05:00 → 北俣ノ水場 05:40 → サワガニ山 06:10 → 07:15 黒岩山 07:30 → 09:25 アヤメ平
09:40 → 11:05 千代ノ吹上 11:25 → 朝日岳 11:55 → 水平道分岐 12:45 → 雪倉岳 16:05 → 16:35 雪
倉岳避難小屋



<黒岩山から犬ヶ岳方面>

夜半の強風のおかげか、雨雲は払われているようで雨はあがっている。学生さんより一足先に出発する。

昨夜はα米のわかめご飯とカップ麺をしっかり食べたし、水が20ほど減りザックが軽くなったので、足取り快調である。

約2時間で黒岩山に着く。幸いにもガスが晴れ、辿った山稜を眺めることが出来た。



<八兵衛平>

黒岩山を過ぎると山容は一変する。今までは細い尾根であったが、池塘が点在する広い山腹へと様変わりし、気分が広やかになる。

黒岩平、アヤメ平、八兵衛平には環境省により数回に分けて木道が整備されており、素晴らしい環境であった。

今回は一面の草紅葉と這松に点在する紅葉とで綺麗であったが、初夏は残雪と這松の緑と高山植物の花々と青空とのコントラストはそれはそれは素晴らしいだろうと思われた。

人気の場所のはずである。

八兵衛平(照葉ノ池)の木道を通り大岩を乗越たら、ひょっこりと吹上のコルへ飛び出た。



<吹上のコル>

コルのベンチに一人で座っていた女性から「梅海新道の終点です。縦走おめでとうございます。」と祝福の声掛けを頂いた。彼女はNHKのディレクターであった。8月に小林千穂さんに日本海から梅海新道を歩いてもらって、番組を収録したそうである。今日は蓮華温泉から五輪尾根を歩いて来たそうで、アヤメ平の紅葉の様子を聞かれた。

「田部井淳子さんと内多アナウンサーが立山から穂高まで縦走した番組が印象に残っている」と話したら、その番組も担当したそうである。日数は20日間かかったそうである。朝日岳まで私の後をピッタリとついてこられた健脚には驚いた。

朝日岳に12時前に着いたし、今夜も悪天候が予想されるので、足を延ばして雪倉岳避難小屋まで進むことにする。

水平道分岐近くの小桜ヶ原の美観に心を奪われた。

常水で補給して50を背負ったら、疲労も一挙に感じられて、雪倉岳への上りは牛歩となってしまった。今山行で一番きつかった所である。



<ツバメ平から見上げる雪倉岳>

夜は暴風と曇であった。朝日平でツェルト泊していたら散々だったろうと思った。

【9月27日】 曇り&ガス、午後から雨

雪倉岳避難小屋 06:30 → 鉦山道分岐 07:10 → 07:55 三国境 08:05 → 白馬岳 08:40 → 08:55 白馬山荘 09:30 → 11:50 清水岳 12:00 → 14:20 不帰岳避難小屋



濃いガスであるが風が弱まったのを見計らって出発する。

天気が悪いので誰とも会わない。

幸い、白馬岳山頂直下でガスが晴れて、草紅葉の白馬岳を写真に収めることが出来た。

白馬山荘で、「午後から雪になること、台風が接近していること」の天気情報、不帰岳避難小屋と熊の情報を聞く。

不帰岳避難小屋の異常情報は無いが、熊の目撃情報が非常に多いとのこと。

<白馬岳山頂の草紅葉>

本来の計画では天狗平でツェルト泊して唐松岳から餓鬼尾根を祖母谷温泉へ下る予定であったが、行程を短縮して白馬岳から清水尾根を下ることとする。

この時間から一気に祖母谷温泉まで下るのは無理なので不帰岳避難小屋泊と決め、ガスの中ではあるが「白馬岳周辺は蛇紋岩が多いのでヒスイがないだろうか」とか、山に居ることを楽しみつつ歩く。

清水平は駒草の群落が見れる所であるが、今はただのザレ場であった。

清水尾根の高山植物の群落地は、一面のそれはそれは見事な草紅葉であった。景色に酔いながらノンビリと下っていたら時間がかかってしまった。小屋に着いた途端に雨が降り出した。上は荒れているかも。

【9月28日】 晴天

不帰岳避難小屋 06:30 → 10:40 祖母谷温泉

明るくなって起き出し、コーヒーとカロリーメイトの朝食を摂り小屋を出る。晴天の景観(杓子、白馬鱧、天狗ノ頭、唐松、五竜、鹿島槍、等)を眺め、沢ごとに水遊びをして、祖母谷温泉へ下った。温泉で汗を流し、富山に着いたのは夕暮れ近かった。翌日、朝一の列車で無事に帰福することが出来た。



<清水尾根の池塘と草紅葉>